

2.1.4 国際協力と人材育成を強化

局所的観測と地球規模観測を組み合わせた包括的で持続的な地球規模水循環観測システムおよびそのデータシステムを構築するには、関係各国の教育、研究コミュニティ、水文、気象現業観測機関との有機的で建設的な連携が不可欠である。

スーパーサイトと水文・気象の現業観測、経済性に優れた多点観測とを組み合わせる地上観測ネットワークの設置、運用や、データ統合化システム等の開発を通じた水循環、水資源に関わる関係国の研究者や高度観測技術者の育成が望まれている。これは、観測研究者や専任的観測研究マネージャの育成が難しいとされるわが国の教育、研究の問題点をも補うものである。そこで、関連する国際的なプロジェクトを整合的に進めうる推進戦略をもつ必要がある。またこれらの活動を支援するため、国内外の研究者や観測技術者の観測技術力を育成するとともに、国際プロジェクトを管理し推進する能力の向上を目指す研修プログラムの開発、提供が必要である。

地球規模水循環観測の実施およびデータシステムの構築に当たっては、観測機材やデータアーカイブ資源の整備が不可欠ではあるが、関係機関との調整、観測のマネジメント、データ収集と品質管理、データ統合化、データから情報への翻訳のための研究・技術開発・定常運用のために相応の人的資源が必要となることから、人的資源の重点的な投入が最も重要であることに留意しなければならない。

河川管理に関する能力開発

土木研究所は、国際協力機構（JICA）の支援のもと国土交通省国土技術政策総合研究所と共同で約3ヶ月間の「河川ダム工学研修」を、毎年世界各国から約20名の研修生を受け入れ、水災害軽減や水管理に関する実践的な研修を実施している。また、同じくJICAの支援のもと、平成16年度より新たに約4週間の「洪水ハザードマップ作成研修」を開催した。初年度は東南・東アジアの8カ国より、計16名の研修生を受入れた。これらの研修では、水文観測技術や観測データ処理手法および計画への活用についての技術移転を図っている。平成17年度にはユネスコの正式な後援を得た「水災害・リスクマネジメント国際センター」を設立予定であり、今後、国内外の関連機関が実施するさまざまな研修プログラムとの連携を図り、津波研修など新たな研修の企画や既存研修の充実・強化を図る予定である。



河川ダム工学研修の様子